

今日のキーワード 「FOMC議事録」と金融政策（米国）

「米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録」は、FOMCから3週間後に公表されます。FOMC終了直後に公表される声明文で景気や物価、金融政策に関する判断が明らかにされますが、議事録はその判断に至るまでの議論が記録され、より詳細な情報を得ることができます。7月26日～27日に開催されたFOMCでは、政策金利が据え置かれました。その内容に関する議事録は、8月17日に公表されました。

ポイント1

短期的な不確実性が後退

国内景気に対する評価は前進

- 今回のFOMC声明文は、「米国景気は緩やかなペースで拡大し、労働市場は力強さを増した」と述べたうえで、景気見直しに対する「短期的な不確実性の後退」を指摘しました。
- 不確実性が後退した要因として、①英国による欧州連合（EU）離脱選択の影響が軽微なものに止まり、金融市場の混乱が一時的なものに終わったこと、②5月に鈍化した米国の雇用増加ペースが6月に急速な持ち直しを見せたこと、を挙げています。

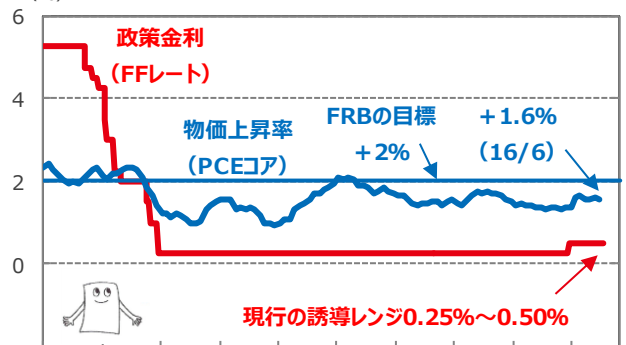
ポイント2

先行きについては、緩やかな利上げで概ね一致

利上げ時期については意見に相違

- 景気の緩やかな拡大見直しに加え、物価上昇率がFOMCの目標値である+2%を下回っている状況を踏まえ、「緩やかなペースで利上げを継続する」との方針で概ね意見が一致しました。
- 政策金利の水準が低く、景気が悪化しても利下げを行う余地が小さいことから、「早すぎる行動によって景気が失速するリスクは避けたい」という意向もあったと見られます。
- 他方、数名の委員は、「低金利の長期化は後々の物価高騰や、バブル発生による経済の不安定化につながりかねない」ため、素早い行動が必要と主張しました。なかには、今回合会で利上げに踏み切ることを主張した委員もいました。

政策金利と物価上昇率の推移



07/1 08/1 09/1 10/1 11/1 12/1 13/1 14/1 15/1 16/1
(年/月)

(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年8月17日。
2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年6月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

金融資産に有利な環境が続く見込み

- 今回の「FOMC議事録」の内容は、「緩やかな利上げ」を改めて確認するものでした。これを受け、米国株式は小幅ながら上昇、債券利回りは低下、為替市場では主要通貨に対してドル安となりました。
- 景気、物価動向から判断すると、次回の利上げは今年12月と考えられます。いずれにしても、物価安定の下での緩やかな景気拡大という、金融資産にとって有利な環境が継続する見込みです。

ここもチェック!

2016年8月 8日 米国の雇用統計（2016年7月）
2016年7月28日 米国の金融政策（2016年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。